

栄えある受賞おめでとうございます

釧路市民貢献賞



産業部門 小川 一典さん(72歳)

昭和61年に釧路市物産協会の理事に就任、副会長および会長を歴任し、長年にわたり健全な運営に取り組まれた。同協会内に販売促進委員会を設置し、全国の百貨店に対し釧路産品のPRや「北海道の物産と観光展」への参加、また将来を見据えたカタログ販売や通信販売などを提案する等、積極的に先頭に立ち努められた。また、平成22年の釧路市物産協会海外事業部の設立、翌年の釧路日台親善協会設立時に顧問として参加し、海外への販路の拡大に向けて大いに尽力された。その他、平成3年に釧路水産加工振興協議会会長に就任し、新商品の開発や品質管理の向上などの水産加工業の高度化に向け継続的に取り組みを進めるなど、釧路市の物産および水産加工の振興・発展に大きく寄与されている。



社会部門 土井 英昭さん(74歳)

昭和61年12月に民生委員・児童委員に就任し、平成25年12月に同会長に就任されてからは、前任の役員の方々の取り組みを受け継ぎ、多大なリーダーシップを発揮され、多くの民生委員の声を直接聴くことが重要であると、会長自ら、全市21地区を毎年回り、各委員の相談・指導に当たって問題解決に尽力された。さらには、民生委員・児童委員活動の重要性を地域住民に深く理解してもらうためのPR活動や、他団体との連携にも積極的に取り組まれ、各団体等との意見交換会を実施するなど、市の民生委員・児童委員活動の発展にも精力的に取り組まれた。その他、北海道民生委員児童委員連盟理事、釧路市遺族会会長等、団体の要職も担われているなど、社会福祉活動の向上に大きく寄与されている。

釧路市文化賞



芸術部門(茶道) 上林 リツさん(94歳)

(雅号 上林宗律) 戦後の混乱の中、日本伝統文化の大切さに気付き、昭和26年に茶道を始め、故杉山宗菊師に師事、昭和41年より自宅において茶道教室を開設。平成元年には、裏千家淡交会釧路支部幹事長に就任し、茶道の一層の発展に尽力された。師の後を継ぎ、茶道を通じた日本人としてのマナー普及のため、ボランティアで27年間続けた阿寒高校茶道クラブへの指導が評価され、平成9年に茶道裏千家鵬雲齋家元より裏千家学校茶道永年勤続者表彰、平成17年には、地域文化振興や国際交流、青少年健全育成への尽力が評価され、国際ソロプチミスト釧路より女性栄誉賞が贈られた。茶道を通じ、後進の指導・育成、伝統文化の普及・啓発に努められ、本市の文化芸術の振興に多大な貢献をされている。



芸術部門(木彫) 瀧口 政満さん(75歳)

東京教育大学教育学部(現筑波大学)附属ろう学校高等部の木工科の授業で「木」との出会いがあり、さらに卒業後の北海道への一人旅で阿寒湖畔において「アイヌの木彫」と出会ったことにより、昭和40年に北海道に転居し、釧路で木彫りの道をスタート。昭和42年に阿寒湖畔に住まいを移し、シマフクロウ、風と対話する少女や女性像など、阿寒湖畔の自然がもたらす「木」そのままの形からイメージされる作品を制作され、高い評価を受けた。また、自身はアイヌ民族出身でないながら、アイヌ文化へも精通し、アイヌ文化の発信に寄与されるなど、本市の文化芸術の振興に多大な貢献をされている。

釧路市スポーツ賞



体操・陸上競技 (故)横地 敏光さん(享年68歳)

平成16年に釧路体操連盟の副会長に就任以来、10年以上にわたり釧路体操連盟の中核として、体操の普及振興に力を注がれ、平成20年からは、釧路体操連盟の会長として、その豊かな経験と適切な判断力で連盟組織の拡大に取り組まれるとともに、全道・全国規模の大会を積極的に誘致された。湿原の風アリーナ釧路のオープンを記念し開催された、「北京オリンピック体操男子帰国報告演技会」の誘致・開催に卓越した手腕を発揮された。また、北海道体操連盟においても要職を歴任され、釧路市はもとより、北海道における体操の発展に大きな足跡を残された。さらに、釧路地方陸上競技協会の副会長として、釧路地域における陸上競技の普及振興に力を注がれた他、釧路市体育協会副会長、釧路市スポーツ少年団本部長として、各競技団体の発展並びに、スポーツを通じた青少年の育成に尽力されるなど、本市のスポーツの普及振興に多大な貢献をされた。



スケート 岩 渕 敏行さん(64歳)

昭和55年に阿寒スケート協会の事務局長に就任以来、35年以上にわたり阿寒スケート協会の中核として、スケート競技の普及振興に尽力されるとともに、60年以上の歴史と伝統を誇る「阿寒スピードスケート選手権大会」をはじめ、全道・全国規模の大会運営に中心的な役割を果たされている。平成12年には、「日蘭交流400年記念阿寒国際スケートマラソン大会」の実行委員長を務められ、その卓越した手腕により同大会を成功に導き、スケート競技を通じた国際交流に大きく貢献された。平成18年からは、阿寒スケート協会の会長として連盟組織の拡大に努力を重ねられ、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構の副理事として培われた豊かな経験を生かし、大会誘致による交流人口の拡大等、スポーツを通じた観光振興および地域経済の活性化にも心血を注がれている。これらの長きにわたる活動の功績により、本市のスポーツの普及振興に多大なる貢献をされている。

釧路市スポーツ奨励賞

アイスホッケー 武修館高等学校アイスホッケー部

平成27年度 全国高等学校総合体育大会第65回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会(インターハイ)優勝(平成28年1月19日~22日、岩手県盛岡市他)



昭和39年に創部されて以来、オリンピック選手をはじめ、多くの優秀選手を輩出するとともに、インターハイでは、これまで2度の優勝を果たすなど輝かしい成績を残されている。平成28年、全道大会を13年ぶりに制覇して臨んだインターハイにおいて「テイクアクション」のチームスローガンの下、練習量よりも質を重視したトレーニングで、個々の判断力と瞬発力に磨きかけたチームづくりが実を結び、前身の釧路緑ヶ岡高等学校時代以来13年ぶり3度目となる優勝に輝かれた。釧路勢としても13年ぶりの快挙は、氷都くしろの名を大いに高め、高校アイスホッケー界の牽引的存在として、今後のさらなる活躍が期待されている。

フットサル 北海道釧路北陽高等学校サッカー部

第2回全日本ユース(U-18)フットサル大会準優勝(平成27年8月20日~23日、宮城県仙台市)



同校開校時の昭和32年に創部されて以来、活発な活動を続け、道外への遠征や、道東プリンスリーグへの参加等、他校には無い独自の取り組みにより、選手個々の技術を高めるとともに、フットサルに重点をおいたトレーニングを重ねてこられた。平成27年、北海道予選3位の成績で初出場した第2回全日本ユース(U-18)フットサル大会では、サッカーの名門校やフットサル専門のクラブチーム等、全国の強豪チームが数多く参加する中、多彩な戦術による巧みな駆け引きと強固なチームワークで勝ち進み、北海道勢初となる準優勝を果たされた。この快挙は、次世代を担う子どもたちに大きな夢と希望を与えるものであり、今後のさらなる活躍が期待されている。

【授賞式の日程】 ●釧路市民貢献賞 10月6日(木) 午前10時
問合せ 市役所市民生活課(☎31-4521)
●釧路市文化賞 11月3日(木) 午前11時
問合せ 市教委生涯学習課(☎31-4579)

●釧路市スポーツ賞・スポーツ奨励賞 10月12日(水) 午後4時
問合せ 市教委スポーツ課(☎31-2600)